

2014年3月期 第2四半期 決算説明会

2013年12月6日（金） 代表取締役社長 中川 賢司



2014年3月期第2四半期 決算概要

第2四半期 連結業績（前年同期との対比）

Ina Research Inc.

（単位：百万円）

	前期2Q 2012年4-9月	当期2Q 2013年4-9月	対前期増減	
	実績	実績	金額	増減率
売上高	1,517	1,144	△372	△24.6%
売上総利益	351	189	△161	△45.9%
販管費・一般管理費	337	282	△55	△16.3%
営業利益	13	△93	△106	—
経常利益	1	△105	△106	—
当期純利益	17	△15	△32	—

3

セグメント別 連結業績（前年同期との比較）

Ina Research Inc.

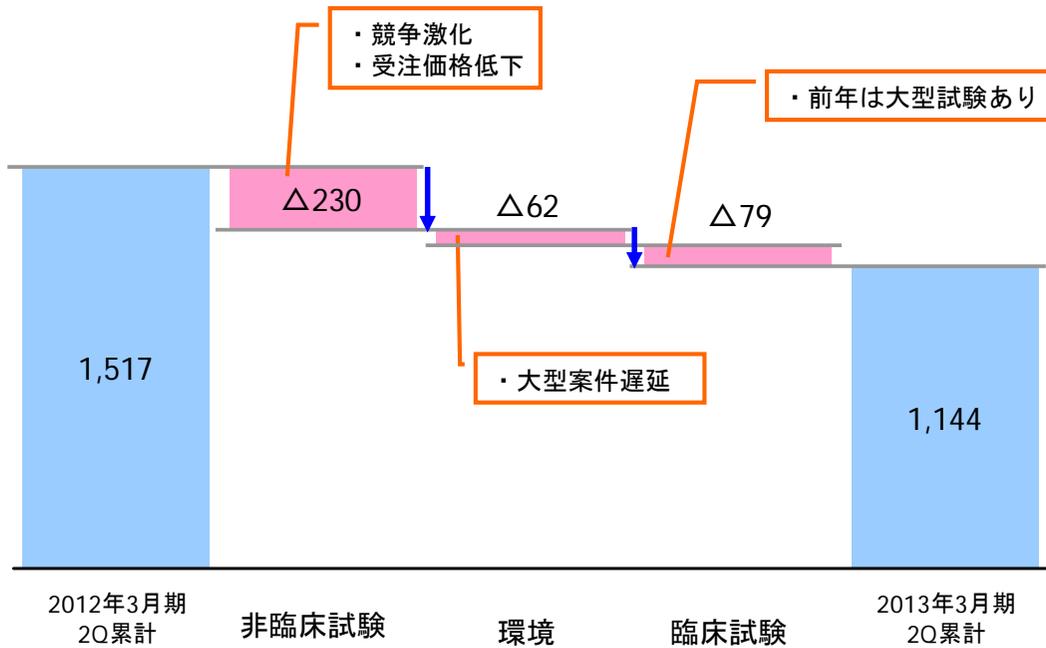
（単位：百万円）

		前期2Q 2012年4-9月	当期2Q 2013年4-9月	対前期増減	
		実績	実績	金額	増減率
非臨床試験	売上高	1,278	1,048	△230	△18.0%
	営業利益	5	△73	△79	—
臨床試験	売上高	106	26	△79	△74.5%
	営業利益	0	△19	△20	—
環境	売上高	132	69	△62	△47.0%
	営業利益	6	△0	△6	—

4

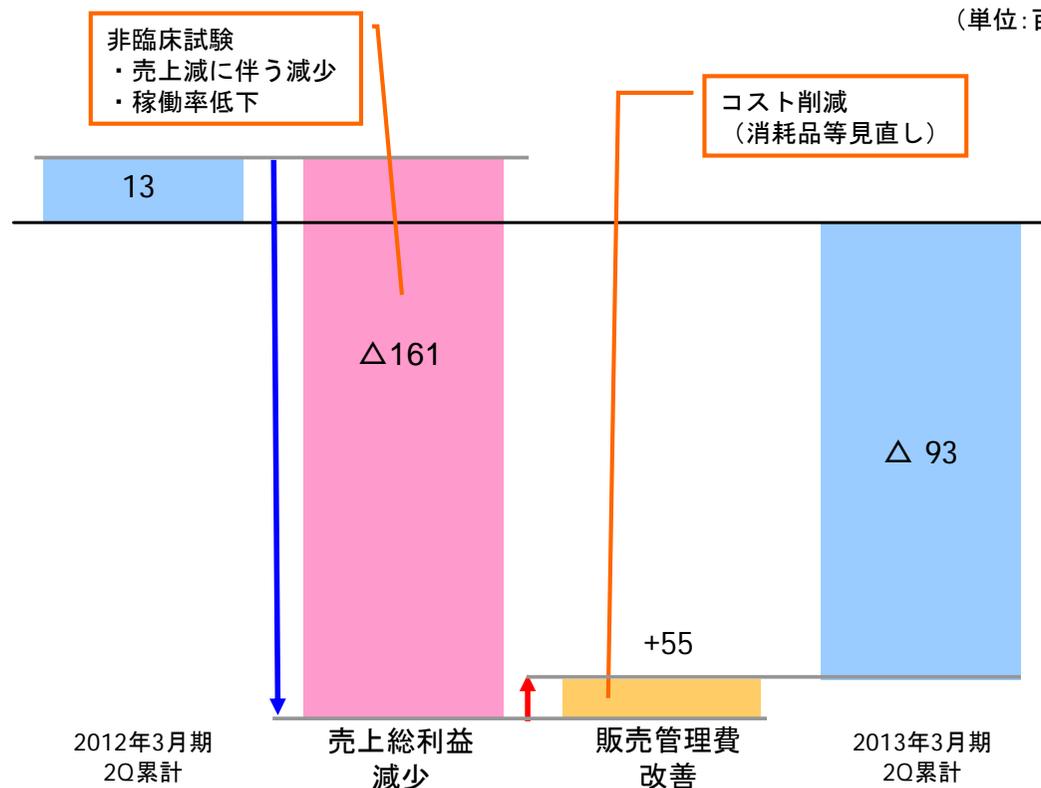
売上高増減内訳

(単位: 百万円)



営業利益増減内訳

(単位: 百万円)



キャッシュ・フロー

キャッシュ・フロー

(単位：百万円)

	2012年3月期 第2四半期	2013年3月期 第2四半期	対前期
営業活動によるキャッシュフロー	157	50	△106
投資活動によるキャッシュフロー	120	57	△62
財務活動によるキャッシュフロー	△340	△213	+127

業績予想

第2四半期 連結業績（業績予想との対比）

Ina Research Inc.

（単位：百万円）

	期初予想 2013年4-9月	2013年4-9月 実績	対当初予想増減	
			金額	増減率
売上高	1,038	1,144	+105	10.2%
営業利益	△ 52	△ 93	△41	—
経常利益	△ 70	△105	△34	—
当期純利益	△ 38	△ 15	+23	—

9

通期 連結業績予想

Ina Research Inc.

（単位：百万円）

	上期	下期	通期
	2013年4-9月 実績	2013年10月-2014年3月 予想	年間予想 2014年3月期
売上高	1,144	1,506	2,650
営業利益	△93	167	74
経常利益	△105	142	37
当期純利益	△15	35	20

10

■配当実績及び当期配当予想について

配当金額の推移

1株当たり配当金

2010年3月期	2011年3月期	2012年3月期	2013年3月期	2014年3月期 予想
5円	7円	8円	3円	3円

2012年10月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。
これに伴い、過年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり配当金を算定しております。

事業展望と課題の進捗状況

市場の現状

- ◆ 非臨床試験受託市場については、2011年度から2012年度にかけて減少が底止まりし、今期は回復基調にある。
- ◆ 製薬業界の新薬開発は活発になっており、市場全体の試験数は過去最高であった2009年度レベルにまで回復しつつあるものと見られる。当社も上期は前年同期と比べて受託試験数としては細かな試験を含めて大幅に増加した。
- ◆ 一方で、製薬会社の研究開発費率増加と売上鈍化に伴うコストダウンへの取り組みは激しさを増しており、CRO間の厳しい競争が続いている。
- ◆ 試験の市場単価は一旦大幅に下がってしまったが、底止まりし、現在は若干ではあるが回復基調にある。
- ◆ 被験物質が非常に高価なため、小型霊長類のマーモセットを試験利用する開発者が増えつつあり、当社でも飼育を開始した。

市場の現状（続き）

- ◆ 製薬企業側での新薬の開発競争が激化しており、スピードに対する要求が高まりつつある。
- ◆ 先端基礎研究への政府投資が増加し、大学やベンチャー・アカデミーによる医薬品開発が活発になっている。
 - * 政府 先端基礎研究へ5年で2000億円（11月3日：日経）
- ◆ また、医師主導治験に伴う非臨床試験の必要性も増えている。
- ◆ 動物倫理の観点等より、使用動物数を減らす為の検討や研究が行われており、技術面で先行するCROには多くの試験が流れる事が予想される。
- ◆ 円安により海外からの受注環境が改善してきた。
- ◆ 2010年問題対策としての品揃えの強化（M&A、ライセンス買取、ジェネリック導入等）が一段落し、基礎研究への投資が回復しつつある

採択課題: MHC統御カニクイザルの有用性評価と計画生産の検討

独立行政法人科学技術振興機構(JST)の研究成果最適化プログラム(A-STEP)
シーズ育成タイプに採択された (2013年11月25日)

(今後のシーズ育成方向)

- ◆ MHC統御(拒絶反応の少ない)個体を用いた試験で移植医療・新薬開発へ貢献
- ◆ DNAタイピング技術によりMHC識別検査の受託サービス事業化の検討
- ◆ MHC統御動物の計画生産技術を確立し、研究機関等へ提供
- ◆ MHC統御動物から作製したiPS細胞の活用
- ◆ 東海大学・椎名隆准教授を中心にした共同研究ネットワークの広がり

15

臨床試験事業の展望

QT関連試験の獲得

- ◆ ファルマシュプール社との共同営業による顧客層の拡大
- ◆ 米国・Cardiocore社の原価改善により市場競争力を強化し、国内製薬会社からのサロQT試験・探索QT試験を獲得
- ◆ サービス面での他社との差別化
 - ・ 海外ラボとの間を仲介し、日本語によるサービスの提供
 - ・ 臨床試験施設への細やかな対応

* 現時点での試験受注残 1.3億円

※1 サロQT試験

臨床試験の初期段階で医薬品の循環器への副作用をヒト(健常者)により予測評価する試験

※2 探索QT試験

臨床Phase I 試験に組み込んで実施するQT評価試験

16

エンジニアリング営業（研究機関内装工事等）の拡大

- ◆ エンドユーザーへのエンジニアリング営業による受注拡大（指定業者化）
- ◆ 環境関連の公共投資案件の取り込み強化

自社ブランド商品の開発と販売網構築

- ◆ 新脱臭素材等の用途開発による自社ブランド商品の創造

動物愛護に配慮した施設運営へのサポート

- ◆ イナリサーチが日本発のAAALAC(実験施設における動物愛護に関する国際規格)完全認証取得機関であることから製薬会社・研究機関からの引合増加

畜産分野への参入

- ◆ 鳥インフルエンザ、口蹄疫といった畜産事業の根底を脅かす疾病に対するソリューション（防疫鶏舎等）の提供

2013年6月期発足 新体制での取り組み

1. 新社是の制定

2. 10年ビジョン策定中

3. 事業ネットワークの拡大

4. トップ営業の強化

5. 試験スピード化への取り組み

6. 従業員とのコミュニケーション活性化

ご清聴ありがとうございました

IR連絡先

本資料に関するお問い合わせ

株式会社イナリサーチ
総務部 IR担当

TEL : 0265-73-6647

医薬品開発のベストパートナー

 **Ina Research Inc.**

<http://www.ina-research.co.jp/>

本資料に関するご注意

本資料は、株式会社イナリサーチの事業及び業界動向に加えて、株式会社イナリサーチによる現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。

これらの将来の展望に関する表明はさまざまなリスクや不確かさがつきまとっています。既に知られたもしくははまだ知られていないリスク、不確かさ、その他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。株式会社イナリサーチは将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なるか、さらに悪いこともありえます。

本資料における将来の展望に関する表明は、2013年12月6日現在において利用可能な情報に基づいて、株式会社イナリサーチにより2013年12月6日現在においてなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。